

町内史跡めぐり（平成 29 年 11 月 18 日）

地域班長会主催の本年度の視察研修「町内史跡めぐり」を実施しました。

前日夕方からの大雨も朝までには上がり、予定通り開催出来ました。町民陸上競技場駐車場より 8:50 発で

→①小那覇公民館の「梅の香り記念碑」、



→②「内間御殿」(内間御殿は、第二尚氏王統の始祖である金丸(のちの尚円王)が内間地頭に任ぜられたときの旧住宅跡に、尚円王没後190年も経てから建てられた神殿のことである。)

→③小橋川の「ペリー野営地跡・大城助素の碑」



→④翁長の「西原の塔・役場壕跡」(西原村(現在は西原町)は沖縄戦当時、日本軍の飛行場があったうえ、司令部が置かれた首里攻防をかけた激戦の地であったため、住民の47%が死亡するなど多くの被害を出した。

この塔は、旧役場敷地内に2万5000B円(米軍占領下で流通した貨幣)を投じて建立され、戦争でなくなった村民、村内で戦死した軍人、軍属ら7,000柱余りが合祀された。)



→⑤車中で、小波津の「弾痕のある石塀及び津記武多グスクの説明」

昼食を挟んで

→⑥幸地の「幸地グスク」



→⑦棚原の「ノロ殿地・土帝君、ウワーフル」



→⑧上原在の「県立埋蔵文化財センター」のコースで実施されました。

特に今回の視察研修は、ニシバル歴史の会の長嶺一男会長に案内ガイドを務めていただき、①～⑦の行く先々で懇切丁寧な説明を賜り有意義な研修となりました。

文化財周辺の清掃作業を請け負っているシルバー人材センターの会員にとって、町内の史跡について新たな知識を得たことは、今後の就業に役立つものになったと思います。

参加されました会員の皆様、大変ありがとうございました。